

## II. メディアを利用した学習における高年齢ホワイトカラーの特性

### 1. ホワイトカラー労働者と職域考察

ホワイトカラー労働者とは、社会的活動を営む組織体の運営を円滑に進めるために必要な業務を、事務所内の机上において実行する労働者のグループをいう。

わが国のような社会的、経済的に成熟度の高まっている社会環境における組織体の活動は、その成果として社会の発展に貢献することが第一に求められる。

組織体の運営業務には、主目的を達成するための業務と、組織の運営が効果的に行われるために補助的役割を果たす業務とがあるが、組織体が成果を挙げるためには、補助的役割の業務と言えども不可欠であり、両者が機能的に一体となって運営の実を挙げなければならないことは明らかである。

しかしながら、わが国の社会経済規模の拡大と複雑化に伴って、本来必要最小限に納めるべき補助的業務の実施体制の肥大化が、管理体制の名のもとに促進されてきており、ホワイトカラー労働者の余剰を生んでいることを認識する必要がある。

近年の情報処理技術の進歩に伴って、業務処理の方法に著しい変革が行われているが、情報処理機器の目ざましい進歩に反して、過去に開発された組織体各部門運営の成果データを集積評価するために運用されている情報処理技術は、その技術の特殊性、情報処理機器と業務システムの改善も行われぬまま適用している例などのように情報処理技術に対する不適切な理解に基づく業務への不適切な適用、また要員の不足もあって、情報量は多くても全ての部門において有効活用ができるように提供されておらず、情報の加工のためにホワイトカラー労働者が必要となって部門別組織内の多層構造を生み、余剰を加速しているのが実態である。わが国の組織体はその活動により新しい社会経済体制に対応して貢献するためには、組織体運営の体制を根本的に見直す必要があることは明らかである。

幸いにして情報処理機器の進歩とともに多くの情報処理技術が開発されて、近年では、ローカルな情報処理が容易に行われるようになったことと、ネットワークによる情報交換が可能となったことにより、ホワイトカラー職域の根本的改革を行う環境が整ってきている。

わが国の産業構造のなかにおけるホワイトカラー労働者の職域に関しては、海外各国との対比がなされ効率化のための改革の必要性が叫ばれてから久しいが、経済発展の陰に隠れてなおざりにされてきたことはいなめない。昨今の情勢を踏まえて、ホワイトカラー労働者の職域を軽量かつクリエイティブな状態に変革することが、わが国の組織体の存亡をかけるものとして急務である。

### 2. ホワイトカラー労働者の業務

組織体の形態、規模によって差異があるが、生産会社を例にホワイトカラー労働者の業務と処理は次のようになる。

表 生産会社におけるホワイトカラー労働者の業務と処理の例

部 門	業 務	内 容	処 理
経営管理部門	中期経営計画	経済動向、需要動向分析、総合経営計画、業種別経営計画 売上計画、生産計画、設備計画、人員計画 研究計画、予算計画、操業計画、資金計画	分析評価 計算作表 文書作成
	年度利益計画	売上計画、生産計画、設備計画、人員計画 研究計画、予算計画、操業計画、資金計画	計算作表 文書作成
	計画実行評価	売上、生産、設備、人員、研究、 予算、操業の部門別予定と実績の評価、対策の実行	計算作表 文書作成
総務人事部門	総務業務	株主関係、取締役関係業務 商業登記、官庁関係諸届申請 固定資産管理、財産管理、環境管理 公害防止省エネルギー、法務関係業務	データ管理 文書作成
	人事業務	人員採用計画、リクルート、採用、就業規則 賃金規定等諸規定、官庁関係諸届申請 就業管理、労務管理、健康管理	データ管理 文書作成 給与計算
財務部門	資金会計	資金計画、資金調達、売掛回収 資金繰り、預金管理、買掛支払 外注費経費支払、現金出納	データ管理 文書作成
	経理原価	全社利益計画、業績まとめ 予算計画、原価計算、決算 財務諸表、勘定元帳、関係官庁届	データ管理 計算記帳 文書作成
営業部門	販売計画	得意先情報、受注計画 営業情報分析、見積計画 見積予算作成、競争会社情報 見積書作成、受注報告	データ評価 計算 文書作成
生産部門	設計	見積設計及び資材取りまとめ 基本設計計画、詳細設計 客先折衝、関係図書作成 研究開発計画立案実施	データ管理 計算 文書作成 図面作成
	調達外注	発注先情報、見積引合、発注 予算管理、日程管理調整	データ管理 文書作成
	生産管理	操業計画、設備計画、日程計画 完成計画、工程計画、工程設計 予算管理、日程管理調整 資材管理、棚卸調整	データ管理 計算 文書作成 図面作成
	品質管理	原価計算、治工具設計 品質保証計画、品質管理計画 検査計画、製品検査	データ管理 文書作成

### 3. ホワイトカラー労働者の職域改革

ホワイトカラー労働者の前述した業務内容については、組織体の社会的責任を果たすために必要不可欠の要件の他に、昨今の組織体に関する社会的要請を満足することも含めて複雑多岐にわたってきており、業務の質としてのルーチン化の困難さと業務量の膨大化という、従来とは、異なった性格の業務処理が要請されていることを認識する必要がある。

このような組織体の運営に要請される条件は、わが国の国内情勢、わが国の置かれた国際的環境を考えれば益々厳しくなることは、容易に想像できよう。

組織体が社会に対する貢献を果たしてこそ、その存在意義があり、またわが国の発展があると考え、現在は、組織体の運営に関与するホワイトカラー労働者の職域と業務処理体制の根本的改革を果たさなければならない重大な時期である。

換言すれば前述した業務内容の条件を踏まえたうえで、責任権限委譲を基本とした組織の多層構造の打破と、ホワイトカラー労働者の基本的力量と業務処理能力の再開発を果たすことにより、組織体の全ての部門における管理組織の軽量化を目的として、的確な業務分析に基づき、前例にとらわれない、また属人主義的でない組織体の改革と運営の効率化施策の実行が必要である。

### 4. 高年齢ホワイトカラー労働者の職域

組織体の管理組織の軽量化を達成すれば、従来の業務におけるホワイトカラー労働者は、膨大化した組織内で余剰化することは当然であるが、一方組織体の運営に不可欠なルーチン化された業務の他に、ルーチン化することの困難な複雑多岐な多量な業務が加わってきており、しかも処理の即時性を要求される昨今の情勢と若年労働者の減少を考慮したとき高年齢ホワイトカラー労働者の永年にわたる業務経験を踏まえて専門的力量と業務処理能力の再開発を行うことにより、わが国の全ての分野における体質改善の過渡的段階と定着段階の両者において、組織体の新しい運営体制のなかでその力量を発揮し得る職域の開拓が可能であると考えられる。

特に現在においても不足感の強い中小組織体の管理運営の強化に役立つことが可能であろう。

### 5. 高年齢ホワイトカラー労働者の特性と新職域開拓の条件

#### (1) 過去の職歴にこだわりが強い

過去の職歴の特殊性を捨てて、新職域との共通性を見い出し、融和をはかることによって自らの職歴を新職域の中で活かすことが可能である。

#### (2) 新職域に対応する時の違和感が強い

高年齢になってから新しい勉強に率直に対面することが必要であり、この壁を越えることで新職域の開拓が可能である。組織体の運営の抜本的改革を目指すために必須条件の一つである。

#### (3) 人生の先輩としての自負心が強い

人生の先輩としては当然の感情であるが、新職域への自らの努力が後輩のレベルアップに貢献する意識をもって謙虚に対処することが必要である。

#### (4) 情報処理機器並びに情報処理技術への恐怖心が強い

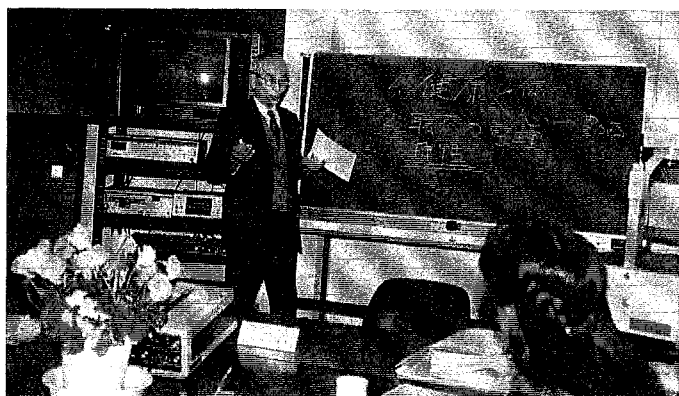
現在の組織体の運営において情報処理機器と情報処理技術の活用は欠くべからざるものがある。

近年の情報処理機器並びに情報処理技術の進歩は、高年齢者に容易に利用できる道具となっており、いわば鉛筆、消しゴム代りとの認識で自らの業務を効率的に処理するために使用できるようになっている。

新職域に適応するための必須条件として、むしろ高年齢者に有利な道具であるとの認識で習得するべきものである。

## 6. 高年齢ホワイトカラー労働者の新職域開拓とCAIによる能力開発

高年齢者が新しい勉強に率直に対面することが必要であり、この壁を越えることで新職域の開拓が可能であることは前述したとおりである。そのためには、高年齢者の学習特性を考慮した学習環境の整備と能力開発の効率化・経済化が求められ、これらの条件を満足するもの的手段としてマルチメディア型CAIの導入は揺るがないであろう。



CAI開発部会



CAI開発部会